

幾何学概論第一 (MTH.B211)

空間曲線の基本定理

山田光太郎

`kotaro@math.titech.ac.jp`

<http://www.math.titech.ac.jp/~kotaro/class/2021/geom-1/>

東京工業大学理学院数学系

2021/10/21 (2021/10/28 訂正)

平面曲線の基本定理の別証明

定理 (平面曲線の基本定理 (存在パート))

C^∞ -級関数 $\kappa: \mathbb{R} \supset J \rightarrow \mathbb{R}$ に対して弧長でパラメータづけられた C^∞ -級平面曲線 $\gamma: J \rightarrow \mathbb{R}^2$ で、その曲率が κ となるものが存在.

- ▶ 点 $s_0 \in J$ を固定して、線形常微分方程式の初期値問題

$$\frac{d\mathcal{F}}{ds} = \mathcal{F}\Omega, \quad \mathcal{F}(s_0) = I \quad \Omega = \begin{pmatrix} 0 & -\kappa(s) \\ \kappa(s) & 0 \end{pmatrix}$$

の解 $\mathcal{F} = \mathcal{F}_0$ をとる.

- ▶ 各 $s \in J$ に対して $\mathcal{F}_0(s) \in \text{SO}(2)$. とくに \mathcal{F}_0 の列ベクトルは正の正規直交系を成す.
- ▶ $\mathcal{F}_0(s) = (\mathbf{e}(s), \mathbf{n}(s))$ と分解して、次が求める曲線:

$$\gamma_0(s) = \int_{s_0}^s \mathbf{e}(u) du$$

空間曲線の曲率

$\gamma: \mathbb{R} \supset J \rightarrow \mathbb{R}^3$: 弧長によりパラメータづけられた空間曲線,

$$\mathbf{e}(s) := \frac{d\gamma}{ds}(s) \quad \text{単位接ベクトル}$$

$$\kappa(s) := \left| \frac{d\mathbf{e}}{ds}(s) \right| = \left| \frac{d^2\gamma}{ds^2}(s) \right| (\geq 0) \quad \text{曲率}$$

空間曲線のフルネ粹

$\gamma: \mathbb{R} \supset J \rightarrow \mathbb{R}^3$: 弧長によりパラメータづけられた空間曲線.
以下 $\kappa = |\gamma''|$ が零点をもたないとする.

$$\mathbf{n}(s) := \frac{1}{|\gamma''(s)|} \gamma''(s) = \frac{1}{\kappa(s)} \frac{d\mathbf{e}}{ds}(s), \quad \text{単位主法線ベクトル}$$

$$\mathbf{b}(s) := \mathbf{e}(s) \times \mathbf{n}(s) \text{ 単位従法線ベクトル}$$

補題

ここまでの状況で, 各 s において $\{\mathbf{e}(s), \mathbf{n}(s), \mathbf{b}(s)\}$ は \mathbb{R}^3 の正規直交基を与える. さらに $\mathcal{F} := (\mathbf{e}, \mathbf{n}, \mathbf{b})$ と定めると,
 $\mathcal{F}: J \rightarrow \text{SO}(3)$ である.

\mathcal{F} : 曲線 γ のフルネ粹.

捩率とフルネ・セレの公式

$$\tau(s) := -\frac{d\mathbf{b}}{ds}(s) \cdot \mathbf{n}(s). \quad \text{捩率}$$

定理 (フルネ・セレの公式)

弧長によりパラメータづけられた空間曲線 γ の加速度ベクトルが零とならないとき、そのフルネ枠を \mathcal{F} 、曲率、捩率をそれぞれ κ 、 τ とすると次が成り立つ：

$$\frac{d\mathcal{F}}{ds} = \mathcal{F}\Omega \quad \left(\Omega = \begin{pmatrix} 0 & -\kappa & 0 \\ \kappa & 0 & -\tau \\ 0 & \tau & 0 \end{pmatrix} \right).$$

空間曲線の基本定理

定理

区間 $J \subset \mathbb{R}$ 上で定義された 2 つの C^∞ -級関数 κ, τ が与えられとくに $\kappa > 0$ が J 上で成り立っているとする. このとき, 弧長によりパラメータづけられた C^∞ -級の空間曲線 $\gamma: J \rightarrow \mathbb{R}^3$ で, 曲率, 捩率がそれぞれ κ, τ となるものが存在する. さらにそのような曲線は変換 $\gamma \mapsto A\gamma + \mathbf{a}$ ($A \in \text{SO}(3)$, $\mathbf{a} \in \mathbb{R}^3$) を除いて一意的である.

例：つるまき線

ふたつの 0 でない定数 a, b に対して

$$\gamma(t) = {}^t(a \cos t, a \sin t, bt)$$

とおく (問題 1-2 参照).

問題 3-1

問題

$J = (-1, 1)$ で定義された, 弧長 s をパラメータにもつ空間曲線 $\gamma(s)$ の曲率 κ , 捩率 τ が, 定数 α に対して

$$\kappa(s) = \frac{\sqrt{2}}{\sqrt{1-s^2}}, \quad \tau(s) = \frac{\sqrt{2}\alpha}{\sqrt{1-s^2}}$$

を満たしているとする. γ の単位速度ベクトルを $e(s)$, 主法線ベクトル, 従法線ベクトルをそれぞれ $n(s)$, $b(s)$ とするとき, 次のすべての条件を満たすベクトル v を $e(s)$, $n(s)$, $b(s)$ の線形結合で表しなさい:

1. $v = v(s)$ は s によらず一定,
2. v と $\gamma'(s)$ の成す角は s によらず一定,
3. $|v| = 1$.

問題 3-2

問題

弧長によってパラメータづけられた空間曲線 $\gamma(s)$ の $s = s_0$ における微分係数 $\gamma'(s_0)$, $\gamma''(s_0)$, $\gamma'''(s_0)$ をフルネ枠 $\mathbf{e}(s_0)$, $\mathbf{n}(s_0)$, $\mathbf{b}(s_0)$ の線形結合で表しなさい.

問題 3-3

問題

例 3.4 を真似て空間曲線の基本定理 3.6 に証明を与えなさい.